1 楊子橋通り（ようずばしどおり）

馬込川に架かる楊子橋から東へ、団地通りと交差する道をいう。
楊子とは、小さい柳のことで、昔この付近の土手や水田のあぜ道に柳の小木がたくさん生えていたことから、このような名が生まれたといわれている。

2 楊子中央通り（ようずちゅうおうどおり）

旧市内から三島橋を渡ったところから東へ、楊子町の中央を東西に走る通りである。
楊子町は、江戸時代前期には三島新屋と呼ばれ、三島村に含まれていたが、やがて楊子村と改められた。
昭和 14 年、浜松市に合併した。

3 学校通り（がっこうどおり）

楊子町町民館東から南へ、白脇小学校へ通じる道路である。
白脇小学校は、明治 14 年 1 月に創立された。現在でも多くの児童が通学に利用している。

4 カニ草通り（かにくさどおり）

町北方の集落に沿って、団地通りから東に通じる道をいう。
昔はこの辺りをカニ草と呼んでいたため、このように名付けられた。
付近のバス停にもカニ草という名が付いているが、いわれについては諸説があり、はっきりしない。

5 宮前通り（みやまえどおり）

浜松神社南側の道路であるため、このように名付けられた。
浜松神社は、その昔「三島大明神」と呼ばれていた。神社の隣に、曹洞宗の神宮寺があるが、神社と寺を一区域にまとめて祭る形式は、伊豆の三島大社と同じである。

6 灯篭通り（とうろうどおり）

町西部の通りで、宮前通りから南へ通じている。
この道は昔、西河原通りといわれていた。しかし、沿道に秋葉灯籠が建っていることからいつのまにか子供たちの間でこのように呼ばれるようになった。

7 中央通り（ちゅうおうどおり）

馬込川に架かる三島橋から南へ、阿弥陀寺の西側を通って、寺脇町との境までをいう。
三島町地内を南北に走る一番にぎやかな道路である。
町内のほぼ中央を通るため、このように名付けられた。

8 野畔通り（のぐろどおり）

野畔とは、町内の字名である。
瓜内町には、このほかに北浦、西川原、村合、池、堰下、十三石、天白、中川原、川原、前川、本田の 12 の字があった。

9 天白通り（てんぱくどおり）

天白様を祭る六所神社の前を通るので、このように名付けられた。
昔、瓜内の村人たちは、この地に天白様を祭り、村内の安全を祈願したといわれている。

10 瓜内通り（うりうちどおり）

旧中田島街道の一部で、瓜内橋から南へ、白羽町へ抜ける道をいう。この道は、昔、大幹と呼ばれてこの辺りの人たちに親しまれていた。瓜内の町名は、この地で瓜づくりが盛んであったため名付けられたといわれているが定かではない。

11 下村橋通り（しもむらばしどおり）

下水処理施設中部浄化センター北側から東へ、馬込川に架かる下村橋を渡り、中田島街道（有玉南・中田島線）へ通じる道をいう。
昔、この付近は瓜内村の下の方（川の下流）に当たるので下村といわれていた。

12 赤池堤（あかいけつつみ）

県道舞坂・竜洋線の北側、浜松鉄工団地の東に、鉄分を多量に含んだ赤い水の池がたくさんあった。その間を縫って造らてた堤防のため、赤池堤と名付けられた。
天竜川の決壊に備えたこの地では、最も重要な堤防であった。

13 団地通り（だんちどおり）

浜松鉄工団地の西側を森下団地へ通じる道をいう。
鉄工団地は、昭和 37 年から 41 年に完成し、金属機械器具製造業種の企業がこの団地に連なっている。この道路は都市計画道路小池三島線で、北へ行くと小池町に通じる。

14 寺脇支校跡地（てらわきしこうあとち）

大正 14 年 4 月、竜禅寺村に竜禅寺小学校が設置された。その支校が上中島村、寺脇村に設けられた。
寺脇村では、これに先立って、神谷権次郎が自ら校舎を建て、子弟の教育をしており、ここに支校が置かれた。その跡地をいう。

15 中上道路（なかがみどうろ）

般若寺の南側を東へ、浜松鉄工団地までの東西の道をいう。
この辺りの地名を中上というため、このように名付けられた。
当地域において、県道舞坂・竜洋線から北では、一番重要な道路となっている。

16 村中の道（むらなかのみち）

白脇小学校東で、県道舞坂・竜洋線から南へ、寺脇川までの道である。
寺脇村当時からの道で、村の中を通るのでこの名が付けられた。寺脇は江戸時代には敷智郡寺脇村であった。その後、白脇村となり昭和 14 年に浜松市に合併された。